

地元小学校児童による はしもりたい 「1日橋守隊」体験学習会について

石川県 土木部 道路整備課 専門員 かわさか ゆうき 川坂 優樹

1. はじめに

石川県では、平成15年に策定した「みちづくり指針」に基づき着実に道路整備を進めてきたが、東日本大震災の発生や道路施設の老朽化が顕在化するなど、道路を取り巻く環境も大きく変化している。

加えて、北陸新幹線の金沢開業後においても、その効果を持続・発展させ、人やものの交流を一層盛んにしていくことが必要であることから、平成27年3月に今後概ね10年間のみちづくりの方向性を示した「石川のみちづくり指針」を策定した。

この指針の基本理念には、「石川のかがやく未来を支えるみちづくり」を掲げ、本県がより一層かがやき、未来へ持続・発展していくための5つの「みちのあり方」を定めている。そのうちの一つに、「次世代へつなぐ持続可能なみちづくり」として、高齢化する道路施設の長寿命化に取り組むこととしている。

加えて、この指針では、「みちづくりの進め方」として、現場見学会の開催、一般の方からの意見を募る「いしかわ道の通信簿」などの実施、みちづくり協議会の設置などを盛り込んでおり、これらにより、県民の意識を啓発し、ニーズを把握し、県民とともに、効果的・効率的に進めるみち

づくりを推進することとしている。

本稿では、県民とともに進めるみちづくりの一つとして開催している「1日橋守隊」体験学習会の取り組みについて紹介する。

2. 「1日橋守隊」体験学習会

本県では、橋梁やトンネル、シェッド、大型カルバート、横断歩道橋、門型標識について平成21年度より順次、長寿命化修繕計画を策定している。これまでの事後保全型の維持管理から早期に損傷を見つけて対処する予防保全型の維持管理に向けて、計画的な点検・診断・修繕・記録のメンテナンスサイクルを確立し、継続的な維持管理に努めている。

長寿命化修繕計画によるハード施策を進める一方で、より広く多くの県民の方々に、道路施設について興味を持ち、その維持管理の必要性について理解を深めてもらうため、日頃からその橋を利用している小学校児童が橋梁補修工事の現場作業を体験できる学習会を開催するなど、ソフト施策も実施している。

(1) 「1日橋守隊」の名称の由来

古来より川や谷を跨ぐ橋は、人々に大切にされ、守られてきた。

橋の近くに住み、専門的知識を持ち、点検から

清掃，補修を行う人を「橋守^{はしもり}」と呼んでいた。

古今和歌集においては、「ちはやぶる 宇治の
橋守なれをしぞ あわれと思ふ 年のへぬれば」
と詠まれ、「橋がいつまでも健全なのは，橋守が
何代にもわたって心血を注いだ結果である。一
方，橋守はどんどん年老いるが，橋守はそのこと
に満足している。橋守さんありがとう。」など，
古くから，橋を管理する人たちは，大事にされて
いた。

また，近年においても，昭和 30 年代頃まで旧
国鉄には「橋守」と呼ばれる方々が，日々の点検，
清掃，補修を行っていたとも聞いている。

いにしへの「橋守」のように橋の維持管理に携
わる体験をしてもらうことから，「1 日橋守隊」
と命名した。

(2) これまでの取り組み

本県では，平成 20 年度より地元小学生を対象
とした体験学習会「1 日橋守隊」を開催しており，
これまでに 12 カ所の橋梁ならびに横断歩道橋の
補修工事で，延べ約 520 名の小学校児童に参加し
ていただいた（表-1）。

平成 25 年度のみ悪天候により中止となったも
のの，毎年，2 カ所ないし 1 カ所で実施して
おり，これまでに県内全域で実施している。

体験学習会は，室内学習と現場体験の 2 つのプ
ログラムとしており，まずは学校内で橋の役割や
補修工事に関する説明を県職員が行ったあと，工
事現場に移動し，施工業者のアドバイスを受けな
がら塗装などの補修作業を体験してもらうことと
している。

なお，通学等で頻繁に利用される施設の補修工
事がある場合には，年度当初に地元小学校に照会
し，学校や保護者の理解を得ながら時期や内容を
調整し，授業の一コマとして体験学習会を開催で
きるよう取り組んでいる。

(3) 平成 29 年度の取り組み

平成 29 年 9 月には，能美市の寺井町横断歩道
橋で寺井小学校の児童を対象に，10 月には能登

表-1 これまでの取り組み

年度	橋梁名	地内	地元小学校
H20	動橋大橋	加賀市	4 年生 50 名
H21	大町大橋	穴水町	5 年生 67 名
H22	川尻橋歩道橋	志賀町	5, 6 年生 28 名
H23	赤谷大橋	白山市	5, 6 年生 36 名
H24	白鳥橋	津幡町	5 年生 56 名
H26	蚊爪橋	金沢市	5 年生 65 名
H26	七尾向山大橋	七尾市	6 年生 21 名
H27	赤浦橋	七尾市	5 年生 63 名
H28	鶴ヶ丘歩道橋	内灘町	6 年生 56 名
H28	仏供田橋	能登町	5 年生 23 名
H29	寺井町横断歩道橋	能美市	6 年生 31 名
H29	新山田橋	能登町	3, 4 年生 18 名
計	12 カ所		514 名

町の新山田橋で鶴川小学校の児童を対象として，
それぞれ「1 日橋守隊」を開催した。

2 橋とも，定期点検により塗装の剥離や鋼材の
腐食がみられたため，計画的に塗装の塗り替えが
必要であったことから，小学生には，塗装の塗り
替えを体験してもらうこととした。

室内学習では，対象とする学年により内容を変
更するものの，「土木とは何?」，「橋の種類」，「橋
の補修」，「塗装の仕組みや役割」を県内外の代表
的な施設を事例にクイズ形式を取り入れたり，橋
の点検や補修を行うことをお医者さんの治療に例
えるなど，小学生にわかりやすく興味を持ってもら
うことを心がけ，説明を行った（写真-1，図-1）。

現場体験では，小学生の安全や作業のしやすさ
を考慮し，橋面上から作業が可能な高欄の塗り替



写真-1 室内学習の様子

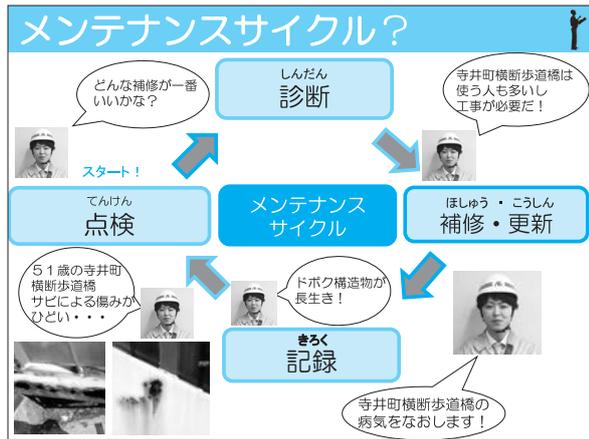


図-1 説明資料

えを行った。あらかじめ施工業者がケレン作業と下塗り、中塗り作業までを行い、小学生は高欄の前に等間隔に並び、アドバイスを受けながら上塗り作業を刷毛塗り体験した。使用する上塗りの塗料は、無溶剤型の水性塗料を採用し、安全で環境に優しい塗料を使用した（写真-2）。



写真-2 現場体験の様子

当日は天候に恵まれ、小学生は慣れない手つきで四苦八苦しつつ、過って顔にまで塗料を飛び散らせながらも、これまでに体験したことのない作業を友達同士で楽しみながら行うことができ、大変満足した様子であった。

3. 「1日橋守隊」の効果検証

今後の改善点を把握してより良い「1日橋守隊」とするために、参加した小学生に対し、室内学習

や現場体験に対する感想をはじめ、「内容の理解について」、「1日橋守隊を通じて土木に興味を持ったか」、「将来、土木の仕事をしてみたいか」などについて、アンケートを行っている（図-2）。

小学生からは、「ほかの人達にも詳しく教えてあげたい」、「普段聞かない職業だけどとても大切に町のためになっている」、「橋のお医者さんは大切な仕事だとわかりました」、「橋は生活の中で大切な物だと思った」などの感想があり、土木への興味のほか、維持管理への理解も深まったと考えている。

一方で、小学生には、なじみのない専門用語による説明もあったため、より一層興味を持ち楽しんでもらえるよう、わかりやすい説明やクイズ形式による説明を増やすなどの工夫も必要であることがわかった。

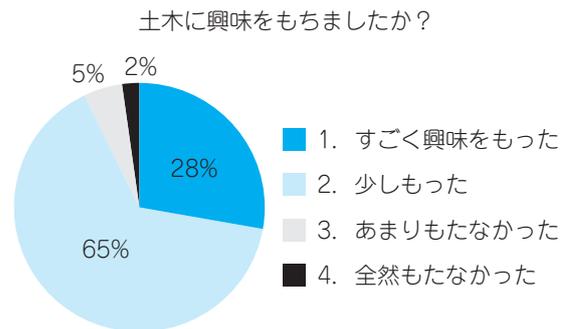


図-2 アンケート結果

4. おわりに

「1日橋守隊」体験学習会のようなソフト施策は、県民が道路に親しみ、道路について考えてもらえる機会と認識しており、今年度以降も体験学習会を継続することで、県民への周知と理解を広げながら、道路施設の長寿命化の確実な実施につなげていきたい。

もちろん、参加した小学生に、橋への愛着と道路施設を大切に使う心が育まれ、将来、「土木」に携わる人が1人でも多く出てくることを切に願いたい。